

平成 23 年 2 月 25 日

平成 22 年度総研大全学教育事業実施報告書

| | |
|--------------------|------------------|
| 申請区分 | 学融合教育事業 総研大レクチャー |
| プロジェクト名 | 科学における社会リテラシー |
| 申請代表者 (事業実施責任者) | 研究科：先導科学 |
| | 専攻：生命共生体進化学 |
| | 氏名：平田 光司 |

■ 要旨

「科学と社会」について考える者が知っておくべき知識の中から「科学哲学入門」、「科学史入門」などを講義するほか、電波天文台の見学を行い、科学の現場にふれ、研究者との議論を行う。哲学や科学を通して、科学を外からみる視点を養う。その特例として、法廷における科学の扱われ方を知ることは、科学者にとっては、それを通じて「法廷」、さらに「社会」を知ることにもなる。また、天文科学専攻以外の学生は電波天文学の最前線を知り、自分の分野と比較することで、天文科学専攻の学生にとっては、他分野の学生の理解や反応を見ることで、科学に関する広い視野を持つことに役立つ。

■ 事業概要

総研大レクチャー「科学における社会リテラシー」2010 年度事業報告

生命共生体進化学専攻 平田光司

本講義「科学における社会リテラシー」は2007年から毎年開催されているもので、基盤機関のキャンパスで行うほか、そこで行われている研究についても学び、研究者とも対話するものである。講義は2単位で中心としては「科学社会学」「科学コミュニケーション」の場合と「科学哲学」「科学史」の場合を隔年で繰り返すが、本年度は後者であった。

2010年度の主な講義（コマ数）と担当者（1コマ90分+質問）、主な内容

期間：2010年8月30日（月）-9月3日

場所：総研大野辺山キャンパス（国立天文台野辺山）

宿泊：国立天文台野辺山宿泊施設

社会リテラシー概論（3）生命共生体進化学専攻・平田光司

事業仕分、社会の中の科学、ポスドク問題、科学の目的

疑似科学と科学哲学（3）京都大学・伊勢田哲治

疑似科学の実例、科学哲学における線引き問題、クリティカルシンキング

科学史入門（3）神奈川大学名誉教授・中山茂

天文と社会、科学と社会一般、日本の科学と社会

法廷における科学（2）東北大学大学院理学研究科・本堂毅

ルンバール判決、科学鑑定、尋問、固い科学感

電波天文学とは何か（1）天文科学専攻・出口修至

45m望遠鏡、SETI、宇宙空間分子、銀河のシンクロトロン放射

電波望遠鏡見学（1）天文科学専攻・久野成夫

45m望遠鏡の見学

太陽の電波観測（2）天文科学専攻・柴崎清登

電波干渉計、太陽の観測、フレアの観測、太陽の活動周期

5月に平田が野辺山を訪問し、教室や施設を下見、出口准教授と打ち合わせを行った。

実際の講義は下記のように行われた。

| | 9時— 10時30分 | 10時50— 12時20分 | 1時40分— 3時10分 | 3時30分 —5時 | 夕食後など |
|---------|---------------|------------------|-----------------|--------------|-------|
| 8月30日 月 | | | 2時半開校式 | 平田 | 懇親会 |
| 8月31日 火 | 平田 | 出口1 | 出口2 | 伊勢田 | |
| 9月1日 水 | 伊勢田 | 伊勢田 | 柴崎1 | 柴崎2 | |
| 9月2日 木 | 本堂 | 本堂 | 中山 | 中山 | |
| 9月3日 金 | 中山 | 平田 | | | |

参加者の内訳

物理科学研究科 3

複合科学研究科 2

生命科学研究科 2

先導科学研究科 5

外部（一橋大学大学院社会学研究科） 1

計 13名 全員がレポートを提出した。

野辺山駅とキャンパスの間には公共交通施設が無く、国立天文台のバスで送迎をしていただいた。学生、講師の宿泊については予約およびその変更の手続きを含んで国立天文台野辺山の事務に変にお世話になった。宿泊施設は非常に快適で、毎晩、実質的な懇親会が開かれ、学生、教員が様々な意見交換をすることが出来た。

■今後の事業展望

来年度は核融合科学研究所で開催することを計画している。学生にとって、科学と社会について集中的に考える機会であり、また知らない研究所を訪問し、多くの学生と専攻を越えて議論する機会ともなっている。しばらくは現状のまま続けたい。